



「ふくし岩手」の新年度の活動について話し合う佐藤明さん(左)と千葉健一代表

## もっと市民に周知を

**応援メッセージ**

盛岡市城西町 遠藤千江さん(71)  
妹に誘われて昨年の交流会に参加した  
が、それまで「ふくし岩手」のことを知らなか  
つた。もっと多くの人にこの団体や活動を  
知ってもらいたい。広報が足りないのか、  
良い活動をしている  
だけというのでは残念だ。もっと一般市民  
への周知が必要だと思う。  
沿岸の皆さんには震災を語り継ぐこと、内  
陸に住む私たちには震災にしっかりと耳を傾  
けることが使命だ。内陸避難者の生の声を  
聞ける機会をたくさんつくりてもらえれ  
ば、私もできだけ足を運びたい。



3カ月に1回のペースで発行している「ふくし岩手」の会報

# 内陸に「古里」づくり

## 被災者支援の「ふくし岩手」

「被災者の声なき声に応えていく支援団体を立ち上げたい」。東日本大震災から4カ月後の2011年7月、盛岡市を中心して被災者支援活動をする「ふくし岩手」(千葉健一代表)が発足した。会員は現在約60人。体操やマッサージをする健康づくり講座、「童謡」事務局長の佐藤明さん(57)は陸前高田市米崎町出身。同市で「はまなす鍼灸」治療院も自宅も被災し、11年4月末から盛岡市に移り住み治療院を再建した。

「本当に高田に戻りたいけれど、仕事をする環境は整っていない。高田にいらなければ代わりに盛岡にいるからこそできる」と精いっぱいやろう。貢献として支援することを決意した。昨年11月、佐藤さんを含む県鍼灸マッサージ師会のメンバー5人が講師となり、被災地から離れ、自分の仕事や生活を最優先にして会費で賄う民間団体だ。

主な活動は、年に一度の交流会や市内の他団体と協力して開く「うだくえ喫茶」を会場で賄う民間団体だ。も体も楽になった」「健康のことを日常でも心掛けたかった」という参加者の声がうれしかった。

■ つらさ共有 被災地から離れ、自分の仕事や生活を最優先にして開く「うだくえ喫茶」を会場で賄う民間団体だ。

千葉代表は「交流会に来るのは同じ顔ぶれ。足を運べない人が住んでいるかを把握できない」と民間団体としての限界を感じている。

それでも「このままここで死んでいくんだ」「帰るべきあるとこもない」といって不安や喪失感を抱えた

被災者は、活動資金として開く「うだくえ喫茶」

千葉代表は「いいね、進めよう」と二つ返事で快諾し、資料に目を通した。被災者の「心のふるえ」とつくるうというふくし岩手の活動は、始まったばかりだ。

(報道部・佐々木真琴)

千葉代表は「佐藤さんが千葉を共に立たせた。丁寧な存在。自らも被災し、ひとりがない状態で他の人のためになろうと自分を奮い立たせた。

丁寧な存在。自らも被災し、ひとりがない状態で他の人のためになろうと自分を奮い立たせた。

IWATE」を通じ、市内度はまだ低く、交流会への参加者は伸び悩んでいる。

■ 人の温かさ 千葉代表は「交流会に来るのは同じ顔ぶれ。足を運べない人が住んでいるかを把握できない」と民間団体としての限界を感じている。

それでも「このままここで死んでいくんだ」「帰るべきあるとこもない」といって不安や喪失感を抱えた

被災者に対する原因と結論づけた。また「避難所」に対する原因と結論づけた。

「来年度の活動で提案なんですが」。佐藤さんが千葉代表が書類を手渡す。題名は「震災関連のドキュメントリーアクション上映会」。千葉代表は「いいね、進めよう」と二つ返事で快諾し、資料に目を通した。

被災者の「心のふるえ」をつくるうというふくし岩手の活動は、始まったばかりだ。

(報道部・佐々木真琴)

# 本部の意思決定欠く

## 大槌町震災検証委が最終報告



越野修三委員長(中)から豊町長(右)最終報告書を受け取る

越野修三委員長(左)から豊町長(右)最終報告書を受け取る

越野修三委員長(左)から豊町長(右)最終報告書